

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	一般財団法人北上市文化創造	
施 設 名	北上市文化交流センターさくらホール	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	5,159	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	5,159 (千円)

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数 (人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	子どもの舞台芸術体験 事業キックザート	2023/5/23～2024/3/3	音楽劇「白いぼうし」菅家奈津子、 御園生瞳、名須川明子、山田うん、 川合ロン、飯森沙百合	目標値	560
		小ホール		実績値	337
2	みんな ART おたがいさ まライブ事業	2023/11/19	アイネ・クライネ・ナハトムジーク ほか、ズーラシアンブラス	目標値	1,033
		大ホール		実績値	1,115
3	アウトリーチ事業	2023/6/7～2024/1/12	野尻小矢佳、加藤直明、新崎誠実、 牧野詩織、アミューズクインテット、 奥村愛、岡本拓也、山田うん、 川合ロン、飯森沙百合、菅家奈津子、 御園生瞳、んまつーぼす	目標値	344
		北上市内各所		実績値	393
4	盆踊り活性化事業「さ くらホール盆ジュール 大会」	2023/8/11	加藤直明、大野孝、コンドルズ(山 本光二郎、安田有吾)	目標値	2,160
		屋外特設会場		実績値	2,050
5	クラシック音楽普及の ためのコンサート事業： きたかみサロン音楽会 シリーズ	2023/10/8. 12/19. 2024/1/13	乾杯の歌、山の音楽家じゅんぱん 協奏曲、ケルトスピリッツ他、野 尻沙矢佳、加藤直明、新崎誠実、 アミューズクインテット、奥村 愛、岡本拓也、	目標値	330
		小ホール		実績値	324
6	北上市青少年鑑賞事業	2023/7/12. 13	キリギリスとアリ、んまつーぼ す、高橋るみ子、大野源喜、西純 之介、樺島優子、坂元美玖、 tiffanyKo	目標値	1,510
		大ホール		実績値	1,703
7	さくらホール動物園～ Co. 山田うん×きたかみ キッズダンサーズ～	2023/9/18. 10/22. 11/17. 11/18	Co.山田うん(山田うん、川合ロン、 飯森沙百合、黒田勇、望月寛斗、 角田莉沙)	目標値	1,120
		小ホール. 大アトリエ. 館内フ リースペース		実績値	2,593

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>■社会的役割への位置づけ</p> <p>令和5年度、さくらホールは開館20周年を迎え、来館者も500万人を達成した記念すべき1年で終わることができた。令和3年4月1日、さくらホール設置者である北上市は心豊かな市民生活と魅力ある活力に満ちた地域社会の実現を目指し、岩手県内初となる「北上市文化芸術基本条例」を施行し、その基本的施策を総合的かつ計画的に推進するため「北上市文化芸術推進基本計画」を令和4年6月に策定した。その中に基本方針の1番に自主性及び創造性の尊重を掲げ、文化芸術活動の整備、芸術家と専門人材を生かした活動の充実を基本施策に記載していることから、社会的位置づけは特に高いことが理解できる。</p>
<p>■地域の特性</p> <p>2024年5月1日時点の岩手県の推計人口は、前の年の同じ月より約18,000人減り、戦後初めて115万人を下回った。特に人口減少が著しいと言われる北東北3県の中でも、北上市は、企業誘致が比較的うまくいっている地域であることから、人口減少を最小限にとどめており、地方自治体としてはまだ安定しているといえる。</p>
<p>■事業の組立や当初の予定通りに事業が進んだか</p> <p>VISION 01「うるおい」、VISION 02「ふれあい」、VISION 03「にぎわい」、VISION 04「あんてい」の4つの柱で計画に沿った事業展開を行っている。令和5年度は、開館20周年ということで事業本数も多めとなったが、幸いコロナ感染症対策撤廃に伴い、予定を変更することなく事業を終えることができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>■文化的意義</p> <p>北上市が「北上市文化芸術基本条例」を制定し、さらに計画的に推進のために「北上市文化芸術推進基本計画」を策定したことで、北上市と財団の協議する機会が増えており、互いの理解度を深めることに繋がっている。財団がより能動的に動けるように、北上市の担当部署の協力が非常に大きく、以前にも増して活動しやすくなっている。</p>
<p>■社会的意義</p> <p>令和5年度は、令和4年度に引き続き「普及啓発事業」の中のアウトリーチ事業を、市内民間企業の繋がりがさらさら大きなグループ企業内で開催することができた。さくらホールの事業活動が認められ、民間企業内でも実施できたことでより多くの参加者、特に平日の勤務時間中に開催できたことの意義は大きかった。今後も国内企業の集積が比較的進んでいる北上市内の企業との繋がりを増やしていきたいと考える。</p>
<p>■経済的意義</p> <p>北上市は東北新幹線の停車駅であるため、比較的交通の便には恵まれていることから、首都圏で活躍しているアーティストが直接来館できる環境にあり、移動の際も地元のタクシーを使用している。児童向けの学校鑑賞関係ではバス会社と連携し、駐車場を埋め尽くすほどの台数が行き来している。駅周辺にもホテルが増えてきており、北上市に宿泊するアーティストがほとんどである。さくらホールで開催される事業の内容によっては全国からお客をお迎えする公演も多数あり、助成事業のみならず、ホールが地元経済には少なからず影響を与えているということがうかがえる。さらにホテルが建設されることが決まっており、ビジネスユースが一番多い北上市において、文化芸術での波及効果も増やしていきたい。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

■普及啓発事業の目標

【市民誰もが文化芸術に親しむ機会を提供する】

①子どもの舞台芸術キッズアート⇒合唱とダンス。年長（5才）から小学生（6年生）までとその母親、②みんなART おたがいさまライブ事業⇒障害のある方、未就学児から全世代、③アウトリーチ事業⇒小学生、中学生、福祉施設の高齢者、企業勤務者（20代から60代）、④盆踊り活性化事業⇒全世代向け事業、出店店舗関係者、舞踊団体、演奏団体、高校文科系クラブほか、⑤クラシック音楽普及のためのコンサート事業⇒小学生以上全世代、⑥北上市青少年鑑賞事業 ⇒市内小学3・4年生、⑦さくらホール動物園～Co.山田うん×きたかみキッズダンサーズ⇒未就学児・小学生・中学生とその保護者、7つのプログラムで幅広い世代に向け文化芸術に親しめる環境を提供できている。

【文化芸術の取り組みを通じて、地域の関係機関（教育、子育て、福祉、医療、地域等）との連携・協力を積極的に進める。】

①アウトリーチ事業⇒学童1カ所39人・小学校4校178人には小学生向けダンスアウトリーチ、勤務者には午前・午後と分け、グループ企業の8社で53人が一から創り上げるダンスに参加。中学・高校では、4校67名に対しアウトリーチとクリニックを行った。福祉施設は2カ所56名に対してアウトリーチで音楽を提供できた。

②盆踊り活性化事業⇒出展団体は15店舗の予定に対し屋内外合わせて24店舗50名の規模に拡大、ステージ発表も予定の5団体50名、ボランティアは高校生が中心となり20名が参加した。盆踊りの生演奏としても地域の演奏者60名が参加した。

【創造性が豊かなオリジナル公演の上演や地域ニーズに応じたプログラム製作を行う。】

①子どもの舞台芸術 キッズアート⇒子どもの個性を尊重した体験プログラムと発表会、講師による創造活動の提供。アーティストによって子どもの個性が引き出されたと回答する保護者の回答が95%以上の目標に対し、結果100%であったため講師との信頼関係、参加者の満足度も高いレベルで維持されていることがうかがえる。②盆踊り活性化事業⇒生演奏に参加している演奏プログラムの内容の満足度が、目標90%以上に対し、結果92.5%であるためこちらも目標自体も高いが、参加者の納得するプログラムが提供できていると判断できる。③さくらホール動物園～Co.山田うん×きたかみキッズダンサーズ⇒館内のフリースペースを子どもたちの思い思いの手作り動物衣装で、館内をダンサーとともに練り踊りで2ステージこなし、さらに小ホールでもディスコ空間を作り上げプロダンサーのみならず、子どもたちのソロダンスもありオリジナルイベントに華を添えた。そんな参加者の満足度も目標90%に対し、結果100%であり、参加した子どもたちの撮影にいそしんだ親御さんも満足できる内容であった。

【さくらホールに足を運びにくい、鑑賞機会を持ちにくい文化芸術を届けることで受益者を増やす】 ①みんなART おたがいさまライブ事業⇒ノンステップで入場可能な鑑賞舞台の設置、未就学児入場可能、座布団を敷きフラットエリアを設置し、大ホール内でバリアフリー体制を整えた。車椅子6人、未就学児89人が入場。②アウトリーチ事業⇒保育、教育、障がい者福祉、企業の4分野で開催し393人が参加した。③北上市青少年鑑賞事業⇒地域の社会福祉法人・特別支援学校の招待。参加は2団体83人に鑑賞していただいた。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

■令和5年度においては、4月から新型コロナウイルス感染症対策は完全に撤廃し、事業をスタートした。

■普及啓発事業に関する事業期間とその計画について

「子どもの舞台芸術体験事業キッズアート」の事業期間が最も長く、2023年4月から募集を開始し、合唱・ダンス共に2024年それぞれ2月、3月までの1年間として最後に発表会までを期間としている。合唱講座12回延べ151人、ダンス講座10回のべ186人がそれぞれ参加した。「みんなART おたがいさまライブ事業」20周年記念事業として開催こちらはコンサートなので1日。「アウトリーチ事業」こちらも年間を通じて、サロン音楽会、キッズアート、青少年鑑賞事業のそれぞれの出演者が、令和5年度は6月から令和6年1月の間で合計9回のアウトリーチプログラムを開催し、393人が参加できた。「盆踊り活性化事業」に関しては、開催は1日であるが、5月ぐらいから出演者との打ち合わせが始まり、関係諸団体との地道な打ち合わせも重ねて8月11日の本番となっている。「クラシック音楽普及のためのコンサート事業」下半期から10月、12月、翌年1月の3回の公演を開催している。「北上市青少年鑑賞事業」は市内全小学校3・4年生が対象となっているが、北上市の日程調整協力を得ながら令和5年度は7月12・13日に3回公演で開催できた。「さくらホール動物園～Co.山田うん×きたかみキッズダンス」メインイベントは11月18日の1日であるが、ダンスワークショップ2日間（9/18・11/17）行い、さらに当日の衣装づくりを10月に開催し、発表日を迎えた。

令和5年度は全ての事業期間を適切に進めることができ、計画通りに終えることができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

■普及啓発事業に関して

事業合計で、予算額13,832,000円に対し、決算額が13,084,847円、変更額は▲747,153円の変更率-5.4%で終えることができたので、限りなく当初の計画通り進んだといえる。令和5年度はコロナの影響がなく一通り計画通りに進んだことと、何より予算積算を厳密に行い、変更率が限りなく小さく済んだことにつながった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

■普及啓発事業（特徴的な1事業）

事業番号2「みんな ART おたがいさまライブ事業」は2019年から続く5度目の開催で、今回は「音楽の絵本～チェンバーオーケストラ」を該当公演とした。この目的は①未就学児や障がいのある方などを含め、だれもが一緒に舞台芸術を楽しむ機会を提供する。②様々な「違い」を認め合い、尊重し合う人々の輪を作り出す。③「未就学児入場不可」で子ども達が触れる機会の少ないクラシックコンサートを提供する。今回は20周年記念ということもあり、大ホール開催で、特に③のお客様に楽しんでいただき、乳幼児期からの本格的なクラシックコンサートの鑑賞体験を提供し、発達段階の子どもたちの感受力を培うことも念頭に置いて開催した。①の目標の対策として、大ホールオーケストラピット部分の1列目から4列目の座席をすべて取り払い、パンチカーペットを敷き詰め、さらにクッションを敷きバリアフリーエリアとし、ベビーカー・車椅子・ストレッチャーの方々誰でも楽しめる場所とした。当日の状況は、車椅子利用者6名、未就学児89名（うちベビーカー10台ほど）がこのエリアで鑑賞出来た。②の目標；チラシやプログラムの配布、公演アナウンスを通じてバリアフリーコンセプトを啓蒙し、お客様に理解し支持していただいた。③の目標；子どもから楽しめる企画内容とバリアフリーコンセプトにより多くの家族連れでにぎわい、入場者の80%が30代から40代の子育て世代で終えることができた。チケット料金もこの助成を生かして「みんな ART」シリーズが安価にしていること、企画内容の趣旨が周知されたことで、大ホール開催を存分に生かした、入場者数（※安全なエリア限定1,115人の完売）で終えることができた。こちらの趣旨が最も伝わった代表的なアンケートがあったので記載します。「今回のようなオケピの使用方でこの公演は今まで見たことがありません。自分の子ども達が小さいころにあったらと思ううらやましく思いましたが、今でも十分楽しむことができました♪そして、開場前や休憩中・終演後に色々演奏が聞こえてくるっていいですね♪20周年記念イベント、さくらホール職員の皆様、その他関わったすべての皆さん本当にお疲れ様でした！」この一文からも地域の文化拠点としての機能が発揮された事業であったといえる。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

■普及啓発事業（2事業抜粋）

事業番号3「アウトリーチ事業」2006年度から18年間継続しているクラシック音楽のアウトリーチはこれまでに、190回実施し、約5,400人を訪問している。北上市の総人口92,920人の5.8%であり、今後も継続していく必要がある。今回のアウトリーチは、音楽にダンスも加えて合計、9カ所13回にて実施できた。その中で「きたかみサロン音楽会」出演者によるアウトリーチに並行して、クリニックも開催することとした。昨今、先生の働き方改革やそれに伴う部活動の地域移行は文化部も同じであり、さらに吹奏楽顧問が指導できない楽器等もあり、同地域内でも吹奏楽部の指導にばらつきがある。これに関しては昔から同様のことがあるが、さくらホールに出演したアーティストが直接指導する機会を得るということは、先生、生徒にとっても貴重な経験であるためそちらにも取り組むこととした。市内2つの中学校吹奏楽部（15人、5人）、でそれぞれ指導を行った。特に中学校のうちの1校は、全国吹奏楽コンクールで2021年から3年連続4度目の金賞を受賞しているレベルの学校にもアウトリーチだけではなく、同じようにクリニックも実施した。指導している顧問の先生から、オーボエとファゴットを直接指導していただく機会がなく、今回のクリニックにとっても感謝しているというお話を直接頂戴するなど、実演芸術を通じ、地域の文化芸術の発展につながったといえるのではないかと。

事業番号4「盆踊り活性化事業」2013年よりさくらホールのある地区自治会と共催で、コロナ期間中1度のオンライン開催を入れ10回目となった。北上市内でも地区の盆踊りそのものが未開催になってきており、そんな中でのホール主体の盆踊りは地域文化の継承と、その踊りの継承の機会にもつながっている。ホールがプロデュースする盆踊りということで、様々な趣向を取り入れ、吹奏楽と盆踊りの融合をテーマに、観るだけでなく参加する盆踊りを目指している。伝統的な地域の「さんさ踊り」を地元の2つの舞踊団体が講師となって当日の指導を行い、さらにオリジナルの盆踊りを「コンドルズ」が指導の下、当日披露している。音楽も生演奏にこだわり、吹奏楽愛好家が、その年の楽曲を決めて練習し、盆踊りのBGMとして演奏するほか、演奏者たちも踊りに参加し当日の盛り上げに一役買っている。この盆ジュールでは、舞踊団体による地元の踊りの継承とその活動の発表、吹奏楽団体ではお盆期間の貴重な帰省時の交流と一般のお客様へのお披露目もできる場にもなっている。さらに浴衣の着付けも、当日できるように協力体制を地元の和服店に依頼しており、ホールを中心とした仕掛けを作り、実演芸術の振興と継承にも役立てている。出演者・関係者239名、コロナ明けということもあり来場者は約1,600人ほどであり、その規模は拡大し続けている。参加者の感想も、「いろいろなものが混ざる空間を感じることができて良かったです。地域の伝統と新しい表現が融合する場があることは、とても意義深いと感じました。地元の住民も積極的に参加していて、地域の行事を盛り上げる雰囲気素晴らしかったです。」「止まらない汗！全くもってカオスなイベント」「鬼剣舞が終わったら北上おでんせと、小鳥崎さんさを踊って、そのあと生バンドでの盆おどりで踊って！！疲れた、でも楽しい！」「大きな空の下、生演奏で踊るのは楽しいですね！地域の人達で作られた温かいイベントでした。」盆踊りを通じて地域の文化芸術を可能にした報告とさせていただきます。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

冒頭、北上市が「北上市文化芸術基本条例」を制定し、さらに計画的に推進のために「北上市文化芸術推進基本計画」を策定したことにて、北上市と財団の協議する機会が増えており、互いの理解度を深めることに繋がっている。財団がより能動的に動けるように、北上市の担当部署の協力が非常に大きく、以前にも増して活動しやすくなっていると記載した。さくらホールは北上市の出資法人としては一番予算が多い外郭団体である。組織の大前提として、さくらホールの活動理解には北上市の協力と理解は必須である。開館以来毎月「北上市」担当部署と「さくらホール」で総務課、企画事業課、利用サービス課、舞台技術課と出席し合同会議を開催している。指定管理の関係からも重要なことと位置付け継続してきた。公文協議等でも他館の状況を確認すると、開催しているところはまずないというのが現状である。さくらホールでは、普及啓発事業の中でも、北上市の協力を得ながら、いち早く相談し事業活動に繋げていることを鑑みても、この合同会議は重要であり、人事異動があっても北上市との協力体制が維持され続けていることは大きいと考える。このことは事業云々の前に、組織活動への理解と財団の持続的発展に必要なことと考えている。

さくらホール 20 周年の特別プログラム、事業番号 7「さくらホール動物園～Co.山田うん×きたかみキッズダンサーズ」は、事業番号 1「子どもの舞台芸術体験事業キッズアート」や事業番号 3「アウトリーチプログラム」に係る長年取り組んできたアーティストと、これからさくらホールと出会う未来のお客様たちとの集大成のような大きなイベントとなった。一部の関わってきた子ども達のためのイベントではなく、キッズアートに参加している今の子どもたち、卒業した子どもたちも中学生の先輩として、衣装づくりに参加したり、当日のダンスのお手伝いをしたりと過去から現在に繋がるものとなった。さらに、この日は当日のダンス飛び入り参加も OK としていたので多数の子供が参加することとなった。この参加者の中から、令和 6 年度のキッズアートにも申込をする人も多く、事業の継続と発展に繋がった。

事業番号 4「盆踊り活性化事業」さくらホール盆ジュール大会も 10 回目を迎え、当初の頃よりも活動が大きくなってきている。端的に言えば係る組織と人数が大きくなってきている。さくらホールという場所のコンテンツに盆踊りのやぐらを組み、プロのダンサーと生演奏による、ダンスと音楽の融合的なものでスタートしてきた。そこに周辺地域住民の協力が加わり、飲食店のキッチンカーの台数も増えるようになり、一部、高校生ボランティアも参加するようになった。令和 5 年度は、さくらホール館内での同日開催イベントとして、クラフトショップ、高校文化部のステージ発表などその内容と規模が拡大している。昨年はコロナ明けということで、入場者・参加者も過去最大になった。さくらホールが、地区の自治会、吹奏楽連盟、社会福祉協議会、高校生ボランティアの調整とステージ発表希望の文化部の確認、飲食部門、出店希望のクラフト部門調整、舞踊団体へと係る組織が拡大し続けている。この調整役として実行委員会を設立したが、うまく稼働できなかったことを反省し、今一度、内容を見直すこととした。さくらホールがすべきこと、さくらホールを活用してやってみたいことがある人を協力者として、事業を進めるという形で今年は取り組むこととした。

さくらホールは、鑑賞を楽しむ事業、補助金を活用した普及啓発事業、そして館内 21 の施設を利用した芸術創作活動が可能な施設の顔を持っている。20 年がたってもなお、北上市民に対して事業を発信し、訪れる人・参加する人が楽しめることを考え続ける施設にしたいと考える。